

外国における天然ガスの開発と利用

ここでは米国とイタリアについてごく簡単に述べる。

a. 米 国

油田ガス・準石油ガスを主として利用し、地質時代はオーストラリアから古生代にわたる。

天然ガス生産量	
1941年	30×10 ⁸ m ³ /月
1947年	59×10 ⁸ m ³ /月
1951年	100×10 ⁸ m ³ /月

主な産ガス地域は東部、南部及び太平洋岸で輸送は延延たるパイプ・ラインに頼っている。

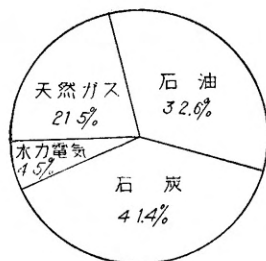
天然ガスはどのように利用されているかと言えば、1947年においては下図右の如くで、その割合は日本に比べて非常に大きい。

また、1950年におけるエネルギー供給割合は下図左の通りである。

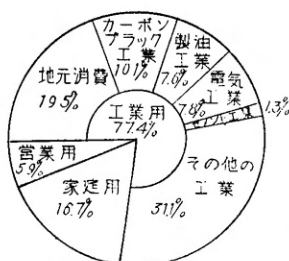
なお、石油系炭化水素を原料とする化学製品の1950年における生産状況は、

合成アンモニア	36億ポンド	43%	(天然ガスによるもの)
合成メタノール	9.89億ポンド	66%	(〃)
合成ゴム	8億ポンド	50%	(〃)
デタージエント	10億ポンド	40%	(〃)

である。



エネルギーの供給割合 (1950)



天然ガス利用状況 (1947)

アメリカにおける

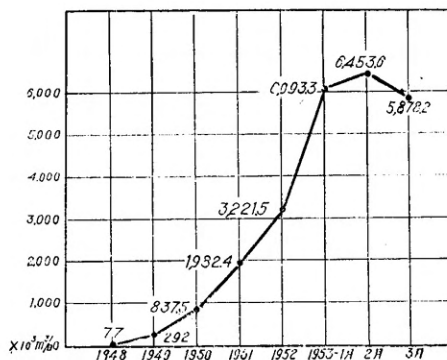
b. イタリア

1913年頃から天然ガスに注目し、戦後急速に産量の増加をみた。開発会社には半官半民の AGIP (Azienda General Italiana Pelcalé) と民間の Lucqie gas 会社がある。

ガス田は北部イタリアにあつて (ポー河地域)、地質時代はオーストラリア及びオーストラリアであるが、大規模のガス田は石油及び準石油系の非共水性ガスで背斜構造に存在する。又 Padoa 地方には小規模な共水性ガスが見られる。

ガス質は多くはメタン系であるが、幅5km・長さ15kmをもつ最大のガス田たる Cortemaggiore (コルテマジュレ) では、1953年に74本のガス井戸があり、その中で18本の井戸は湿性ガスを産し、これからガソリンを抽出している。この坑井深度は1,500~4,400mにわたり坑井間隔は700mである。

天然ガスの大部分は北イタリアで使用されていて、利用面は工業用燃料が最も多く、この外 AGIP は電力会社群と提携して、1952年中期からガスによる発電を開始し、1953年才1・4半期には4億 KWH 以上の電力を発電した。



イタリアにおける天然ガスの産出量 (1948-1953)